

# あれから10年 姫川 関川 1995.7.11 これから100年

## 事業の目的

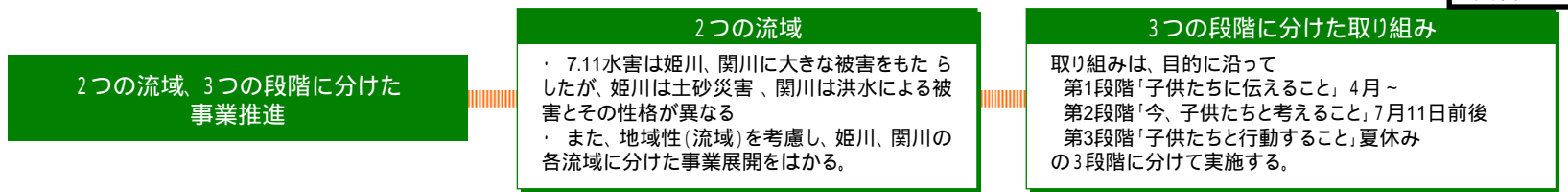
振り返り、伝えること  
地域で起こった「7.11水害」をあらためて思い起こし、水害を体験していない世代に伝えていく。  
水害が再び起こる可能性があることも認識してもらう。  
今、考えること  
水害の事実を踏まえ、これからの「治水・利水・環境」を考える。  
行動すること  
姫川・関川を水害だけでなく、地域の母なる川として親しみを感じられる活動を行う。

## “地域”を考える事業

災害と地域～社会資本  
日常生活に密接した社会資本が、災害によって失われてしまう。社会資本と地域の関わりを考える。  
上流と下流～流域  
上流と下流での川の表情の違いと地域性の違いを理解し合うことで、地域間の理解を深める。  
川に親しむ、川をまもる～親水  
川に親しむことから、川の環境をまもること、地域の環境をまもる活動につながる。

## 活動の中心は子供たち

これから100年  
地域のこれからを担う子供たちに今回の事業の中心的な役割を担ってもらいたいと考える。  
総合学習  
学校のカリキュラムに取り入れられた総合学習では「川」は身近なテーマとして取り組みが盛んである。  
小学4・5年生と中学生  
総合学習で「川」をテーマとして取り組む学年は、小学4・5年生が多い。平成17年度の4・5年生はちょうど水害があった前後に生まれた子供たちである。  
また、実際に大きな被害があった新井南中学校など中学生への参加を呼びかけたいと考える。



### 第1段階 7.11写真展「子供たちに伝えること」(2005年4月～)

1995年7月11日、姫川・関川を襲った災害

第1段階の目的は、7.11水害の事実を思い起こし、体験していない世代に伝える。また、水害が再び起こる可能性があることも認識してもらう。写真展や出張講座などを通じた活動を展開する。

7.11写真展  
7.11水害の記録写真を場所や時系列で整理し、パネル写真展を実施。  
市役所、道の駅、ショッピングセンターなど、できるだけ多くの人に目に触れてもらえるような場所で実施する。  
また、現在の町村単位での「ミニ写真展」も実施するし、身近なこととして訴える。

出張講座  
授業などで川の学習を行っている学校やへ向き「7.11出張講座」を実施。  
7.11水害の被害の様子や、復旧工事などの状況、その後の防災対策などを説明する。  
子どもだけでなく、その親にも参加いただき、水害が過去の出来事ではなく、いつ起こるかわからないもの、ということ伝える。

### 第2段階 7.11シンポジウム「今、子供たちと考えること」(2005年7月上旬)

2005年7月、10年前を振り返り、今、考えること

第2段階は、水害の事実を踏まえ、川について管内全体で考える「7.11シンポジウム」。姫川流域、関川流域で実施する。  
姫川は上流域(小谷村)、下流域(糸魚川市)で実施

姫川7.11フォーラムin小谷(仮)	姫川7.11フォーラムin糸魚川(仮)	関川7.11フォーラム(仮)
現地見学会 ＜大系線で行く姫川見学ツアー＞	基調講演	文化講演会
姫川7.11公開シンポジウムin小谷	子どもプレゼンテーション 姫川7.11公開シンポジウムin糸魚川	関川7.11公開シンポジウム 子どもプレゼンテーション

7.11水害を振り返り、検証しながら改めて地域にとっての川を考え、災害について考える機会とする

7.11シンポジウム(仮)

これからの姫川、関川について考え、地域にとっての川、防災に対する備えを喚起していく

### 第3段階 関川・姫川(Waku)<sup>2</sup>ワールド「子供たちと行動すること」(2005年夏休み)

2005年夏、子供たちと一緒に行動すること

第3段階ではイベントを通じて、行動に移す。イベントの中で川についての知識と遊びが体験できる仕組みとする。

川の勉強会  
川のメカニズムや川に住む生き物、植物など、いくつかテーマを設けた「川を勉強する」取り組み。  
模型や実験などを通じて「体験」してもらうことで理解してもらう。

親水イベント  
さまざまな川遊びを体験するイベント。  
安全な遊び方、自然を傷つけない遊び方  
どんなこと(場所)が危険なのか、など川遊びのノウハウを伝授する取り組み。

これから100年先に伝えること → 「2005.7.11 Magazine」  
事業の取り組みをマンガなどを使いながら報告書としてまとめ、総合学習や川の勉強会など、後々に活用できる編集とする。